

(報道発表資料)

京都文学賞

Kyoto Literature Award

令和6年10月11日

京都市文化市民局

〔担当：文化芸術都市推進室文化芸術企画課〕

電話：075-222-3119

京都文学賞実行委員会

「第4回 京都文学賞」一般部門 最優秀賞受賞作

『危険球』（木住 鷹人 著）の刊行について

京都市では、文学の更なる振興や「文化都市・京都」の発信等に寄与するため、令和元年度から「京都文学賞」を実施しており、現在、第5回の作品及び読者選考委員を募集しています。

この度、第4回京都文学賞の一般部門で最優秀賞を受賞（令和5年度）した『危険球』（木住鷹人氏）が、協力出版社の早川書房から10月23日に刊行されます。

記

1 書籍刊行について



書名：危険球

著者：木住 鷹人（きすみ ようと）

出版社：早川書房

刊行日：令和6年10月23日（水）

価格：1,980円（税込）

カバーイラスト：しらこ

カバーデザイン：早川書房デザイン室

<帯コメントから>

第4回京都文学賞受賞作

全世代が落涙必至の青春小説

いしいしんじ氏(作家) 絶賛！

この小説のなかに、情熱を込めて投げこまれていないことばは一球としてない。

【あらすじ】

熱が球場を覆っていた——夏の甲子園出場をかけた京都府大会決勝。エース投手・権田至の手から放たれた際どいボールは、打ち返そうと踏み込んだ強打者・仁科涼馬の頭部を直撃した。静まる球場に至の声がなぜかよく響いた。「あんな球、避けられるでしょ」その言動を捨ておけず、球審・鍋島は退場を宣告、高校野球では異例のことだった。世間の至への非難が、炎上が始まった。そうした混乱の中、“被害者”であるはずの仁科が意外な言葉を口にする。「あれは危険球ではなかった」はたして真実はどこにあるのか？

○ 著者プロフィール

木住 鷹人 (きすみ ようと)

1963年、京都市生まれ。兵庫県在住。

立命館大学法学部卒業。

銀行を経て、現在その関連会社で勤務。

2024年、「危険球」で第4回京都文学賞一般部門最優秀賞受賞。



○ 受賞作の出版化について

京都文学賞の受賞作のうち、以下の作品については、これまでに協力出版社から書籍を刊行いただいています。

回	部門・賞	作品名	作者名	出版社	刊行月
1回	一般最優秀賞	羅城門に啼く (「もう森へは行かない」改題)	松下隆一	新潮社	R2. 11
	一般優秀賞	屋根の上のおばあちゃん (「太秦——恋がたき」改題)	藤田芳康	河出書房新社	R2. 11
2回	一般・海外最優秀賞	鴨川ランナー	グレゴリー・ケズナジェット	講談社	R3. 10
3回	一般最優秀賞	ビぼう六 (「備忘六」改題)	佐藤ゆき乃	ちいさいミシマ社	R5. 11
	中高生最優秀賞	ちとせ (「闇に浮かぶ浄土」改題)	高野知宙	祥伝社	R4. 11